

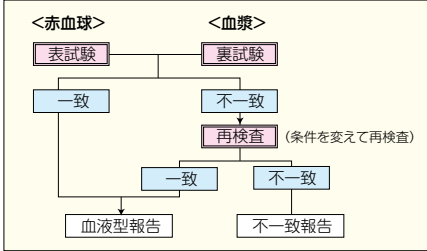
項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
血液型 関連 検査	0313 ABO式血液型 5H010-0000-019-101	血液2.0	5	冷蔵	2~3	24 ⁴ 免疫	カラム凝集法 試験管法			血液型判定
	0314 Rh式 (D) 血液型 5H020-0000-019-101	血液2.0	5	冷蔵	2~3	24 ⁴ 免疫	カラム凝集法 試験管法			
	0315 Rh-Hr式血液型 (タイピング) 5H025-0000-019-101	血液2.0	5	冷蔵	2~3	152 ³ 免疫	各特異抗血清に よる試験管法			
	0318 直接クームス試験 5H121-0000-019-101	血液1.0	5	室温	2~3	34 免疫	試験管法	陰性		輸血 自己免疫性溶血性貧血
	0319 間接クームス試験 5H122-0000-023-101	血清1.5	1	冷蔵	2~3	47 ² 免疫	カラム凝集法 試験管法	陰性		
	0322 間接クームス試験定量 5H122-1352-018-101	血液10	13	冷蔵	2~4		試験管法	1未満 ^倍		
	0320 不規則抗体 (赤血球不規則抗体) 5H180-0000-023-101	血液7.0	1	冷蔵	2~3	159 ¹ 免疫	カラム凝集法 試験管法	陰性		血液型不適合輸血
	0381 クロスマッチ (交差適合試験) 5H160-0000-018-101	受血者10 供血者3.0又は パイロットチューブ	13		1~2	²				

- 輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、第2章第10部手術第7款の各区分に掲げる胸部手術、同部第8款の各区分に掲げる心・脈管手術、同部第9款の各区分に掲げる腹部手術又は「K877」子宮全摘術、「K879」子宮悪性腫瘍手術、「K889」子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）、「K898」帝王切開術又は「K912」異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。
- また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は「K920」輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。
- この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれに該当するか記載する。
- 不規則抗体検査の費用として検査回数にかかわらず1月につき197点を所定点数に加算する。ただし、頻回に輸血を行う場合にあっては、1週間に1回に限り、197点を所定点数に加算する。
- 第10部手術第7款の各区分に掲げる胸部手術、同部第8款の各区分に掲げる心・脈管手術、同部第9款の各区分に掲げる腹部手術又は同部第11款の各区分に掲げる性器手術のうち区分番号K898に掲げる帝王切開術等を行った場合に算定する。
- ② 輸血に伴って、血液交叉試験、間接クームス検査又はコンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算、間接クームス検査加算又はコンピュータクロスマッチ加算として、1回につき30点、47点又は30点をそれぞれ加算する。ただし、コンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。
- ③ Rh（その他の因子）血液型については、同一検体による検査の場合は因子の種類及び数にかかわらず、所定点数を算定する。
- ④ 輸血に伴って行った患者の血液型検査（ABO式及びRh式）の費用として54点を所定点数に加算する。

【ABO式血液型】

- 生後1歳までは、血液中の抗体価が低いため表試験のみでの報告となります。
1歳未満の幼児の場合、必ず月齢あるいは生年月日を検査依頼書にご記入下さい。
- 表試験・裏試験の結果が一致した場合のみ、血液型を報告致します。
- 表試験・裏試験が一致しない場合には「不一致」、反応が通常と異なる場合には「判定保留」と報告致します。
- 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますので、ご注意下さい。

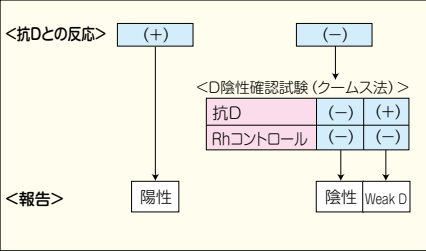
図1 ABO式血液型検査手順



【Rh式 (D) 血液型】

- 抗Dには、モノクローナル抗体を使用しています。
- 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますのでご注意下さい。

図2 Rh式血液型検査手順

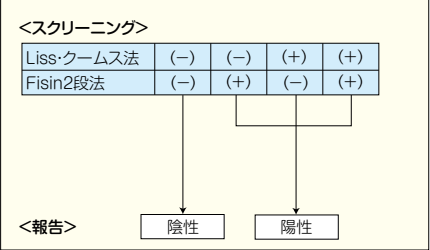


【不規則抗体】

日本輸血学会の「赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン」を参考にしています。

- 本検査は、37℃で反応する血清中の不規則性抗体の検出を目的としています。
- クームス法は多特異性クームスを使用したLiss・クームス法を、酵素法はFisin 2段法を実施致します。
上記の検査法以外で予め検査実施し、改めて当社に検査を依頼された場合、検査手法に基づく反応性の違いによりデータが乖離する例があります。
- パネルセルとの反応の強さやパターンによって、存在する不規則性抗体を同定できない場合があります。
- 希な抗体は、同定できない場合があります。
- 最近輸血を受けた患者では、正しく判定できない場合があります。
- 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますのでご注意下さい。
- 検体の状態によっては、カラム凝集法以外の検査法を実施する場合があります。

図3 不規則性抗体検査手順



【間接クームス試験】

- クームス法は多特異性クームスを使用したLiss・クームス法を実施致します。
- 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますので、ご注意下さい。
- 検体の状態によっては、カラム凝集法以外の検査法を実施する場合があります。

【直接クームス試験】

- クームスには多特異性クームスを使用致します。
- 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますので、ご注意下さい。



項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
0357	α1アンチトリプシン 5C020-0000-023-063	血清0.4	1	冷蔵	3~5	80 血液	ネフエロメトリー法	mg/dL 94~150	※02	感染症 悪性腫瘍 膠原病 肝疾患
1108	レチノール結合蛋白 (RBP) 5C030-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵		136 免疫	ラテックス凝集 比濁法	mg/dL M : 2.7~6.0 F : 1.9~4.6	※02	ビタミンA欠乏症 肝疾患 腎不全
3321	β2-ミクログロブリン (B₂-MG) 5C065-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	2~3	104 免疫	LA法	mg/L 0.9~2.0	※01	腎不全 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 悪性腫瘍
3463	尿中β2-ミクログロブリン (U-B₂MG) 5C065-0000-001-062	尿1.0	2	冷蔵	3~4		LA法	μg/L 200以下	pHが5.5~7.5に なるよう0.5N水酸 化Naまたはアン モニア水で調整し て提出 ※06	
1092	ハプトグロビン (Hp) 5C040-0000-023-063	血清0.5	1	冷蔵	3~5	136 免疫	ネフエロメトリー法	mg/dL 1-1型 83~209 2-1型 66~218 2-2型 25~176	※02	炎症性疾患（感染 症、膠原病など） 悪性腫瘍 溶血性疾患 肝疾患（急性肝炎、 肝硬変）
5237	血清アミロイドA蛋白 (SAA) 5C080-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	2~3	47① 免疫	LA法	μg/mL 8.0以下	※01	ウイルス感染症 急性肺炎 急性気管支炎 心筋梗塞 悪性腫瘍
1094	C反応性蛋白 (CRP定性) 5C070-1351-023-062	血清0.3	1	冷蔵	1~2	16① 免疫	LA法	(-)		細菌感染症 炎症性疾患 心筋梗塞 悪性腫瘍 関節リウマチ ウイルス感染症 (上昇は軽度)
1059	C反応性蛋白 (CRP定量) 5C070-0000-023-062					16① 免疫		mg/dL 0.30以下		
3268	トランスフェリン (Tf) 5C060-0000-023-063	血清0.5	1	冷蔵 (1週間)	2~4	60 免疫	ネフエロメトリー法	mg/dL 190~320	※01	鉄欠乏性貧血 溶血性貧血 肝硬変
5270	セルロプラスミン 5C045-0000-023-063	血清0.4	1	冷蔵	3~5	90 免疫	ネフエロメトリー法	mg/dL 21~37	※02	膠原病 貧血 肝・胆道疾患 悪性腫瘍 ウイルソ病
5525	C1-インアクチベータ 5B045-0000-022-315	血漿0.2 速やかに遠心	23	(分離後) 凍結 (16日)	3~5	268 免疫	発色性合成 基質法	% 70~130	採血後速やかに 血漿分離して下 さい。 ※02	SLE 急性炎症性疾患 関節リウマチ
5274	α2-マクログロブリン (α₂-MG) 5C035-0000-023-063	血清0.4	1	冷蔵	3~5	138 血液	ネフエロメトリー法	mg/dL M : 100~200 F : 130~250	※02	慢性肝疾患 ネフローゼ症候群 DIC
3457	α1-ミクログロブリン (α₁-MG) 5C015-0000-023-062 5C015-0000-001-062	血清0.5	1	冷蔵	2~4	136 免疫	ラテックス 凝集法	mg/L 9.1~18.4	※06	腎不全 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群
3458		尿1.0	2					mg/L 8.3以下		
5262	プレアルブミン (トランスサイレチン) 5C010-0000-023-063	血清0.5	1	冷蔵 (1週間)	3~4	107 免疫	ネフエロメトリー法	mg/dL 22.0~40.0	※01	栄養不良 慢性肝障害
2150	肝細胞増殖因子 (HGF) 4Z315-0000-023-023	血清0.3	1	(分離後) 凍結 (1ヶ月)	3~9	227② 生I	ELISA法	ng/mL 0.39以下	※02	劇症肝炎

①血清アミロイドA蛋白 (SAA) をC反応性蛋白 (CRP) 定性又はC反応性蛋白 (CRP) と併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

②肝細胞増殖因子 (HGF) は、ELISA法により、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。



項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
1404	トロンボモジュリン 2B730-0000-023-023	血清0.6	1	(分離後) 凍結	3~9	204 ^① 血液	EIA法 (プレート固相法)	FU/mL M: 2.1~4.1 F: 1.8~3.9	※01	DIC 膠原病
3277	C3 (β ₁ C/β ₁ Aグロブリン) 5B023-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	2~3	70 免疫	TIA法	mg/dL 80~140	※01	SLE 急性糸球体腎炎 C3欠損症
3278	C4 (β ₁ Eグロブリン) 5B024-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵		70 免疫	TIA法	mg/dL 11.0~34.0	※01	SLE DIC 慢性増殖性腎炎 肝硬変症 C4欠損症
3275	免疫グロブリン-G(IgG) 5A010-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	2~3	38 ^⑦ 免疫	TIA法	mg/dL 820~1740	※01	慢性活動性肝疾患 膠原病 急性感染症(後期) 慢性感染症 IgG型多発性骨髄腫
3324	IgGサブクラス分画 5A050-0000-023-920	血清0.5	1	冷蔵	3~7		免疫比濁法および ラテックス免疫比濁法	mg/dL IgG1 351~962 IgG2 239~838 IgG3 8.5~140 IgG4 4.5~117	※02	
3328	IgG2 5A056-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵 (28日)	3~7	239 ^⑥ 免疫	免疫比濁法	mg/dL 239~838	※02	IgG2欠損症(欠乏症)
3357	IgG4 5A058-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵 (28日)	3~5	377 ^⑤ 免疫	ラテックス 免疫比濁法	mg/dL 11~121	※02	アトピー性皮膚炎 IgG4型多発性骨髄腫 IgG4関連疾患
3274	免疫グロブリン-A(IgA) 5A015-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	2~3	38 ^⑦ 免疫	TIA法	mg/dL 90~400	※01	慢性肝炎 慢性感染症 膠原病 IgA腎症 IgA型多発性骨髄腫
3276	免疫グロブリン-M(IgM) 5A020-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵		38 ^⑦ 免疫	TIA法	mg/dL M: 31~200 F: 52~270	※01	肝疾患 感染症初期 膠原病 原発性マクログロブリン血症
5217	心室筋ミオシン軽鎖 I 5C092-0000-023-023	血清0.5	1	冷蔵	3~6	184 ^② 生 I	EIA法	ng/mL 2.5以下	※02	心筋梗塞 心筋炎
0157	クリオグロブリン 5A160-0000-023-920	血清2.0	1	(分離後) 冷蔵 (1週間)	4~6	42 免疫	寒冷沈殿法	(-)	採血時の注意: 採血時から血清 分離は37℃保 温状態で行って 下さい。全血で の冷蔵保存は厳 禁 ※01	膠原病 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 肝疾患 ループス腎炎 糸球体腎炎
2496	血小板関連IgG PA-IgG 予約検査 5G525-0000-019-021	血液7.5 (ACD-A液加)	68	冷蔵 凍結不可	3~5	198 ^③ 免疫	ELISA法	ng/10 ⁷ cells 46以下	受託可能日は月~木曜 日です。祝祭日の前日 は不可です。末梢血の 血小板が3.0×10 ⁴ /μL 以下の場合は、専用容 器2本を使用し必ず 10mL以上採血してく ださい。 ※02	特発性血小板減少性 紫斑病 SLE
4563	シアル化糖鎖抗原 (KL-6) 5C210-0000-023-052	血清0.4	1	冷蔵	3~4	114 ^④ 生 I	CLEIA法	U/mL 500未満	※06	間質性肺炎
4562	肺サーファクタント プロテインD (SP-D) 3F253-0000-023-052	血清0.3	1	冷蔵	3~4	136 ^④ 生 I		ng/mL 110.0未満	※01	特発性間質性肺炎 膠原病関連間質性 肺炎
4847	肺サーファクタント プロテインA (SP-A) 3F250-0000-023-052	血清0.6	1	冷蔵	3~4	130 ^④ 生 I		ng/mL 43.8未満	※01	間質性肺炎 炎症性肺疾患

① トロンボモジュリンは膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。

② 心室筋ミオシン軽鎖 I は、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。

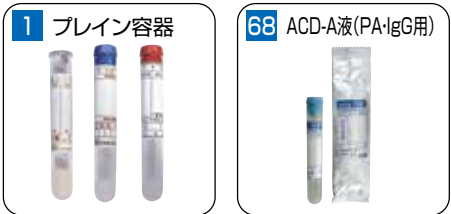
③ 血小板関連IgG (PA-IgG) は、特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。

④ シアル化糖鎖抗原 (KL-6)、肺サーファクタント蛋白-A (SP-A) 及び肺サーファクタント蛋白-D (SP-D) のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。KL-6は、EIA法、ECLIA法又はラテックス凝集比濁法により、肺サーファクタント蛋白-A (SP-A) 及び肺サーファクタント蛋白-D (SP-D) は、EIA法による。

⑤ IgG4はネフェロメトリー法又はTIA法による。

⑥ IgG2 (TIA法によるもの) 及びIgG2 (ネフェロメトリー法によるもの) は、原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。これらを併せて実施した場合は、「28」のIgG2 (TIA法によるもの) により算定する。

⑦ 免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
3253	M2BPGi (Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体) 5C141-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~6	194 ^{①②} 生I	CLEIA法	判定 (-) カットオフインデックス: 1.00未満 判定基準: 下記参照	※01	慢性肝炎 肝硬変、 肝細胞癌
4510	4型コラーゲン 5C134-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	3~4	139 ^① 生I	ラテックス凝集法	ng/mL 140以下	※01	悪性腫瘍
5501	4型コラーゲン・7S 5C135-0000-023-001	血清0.5	1	冷蔵	4~6	148 ^① 生I	RIA2抗体法	ng/mL 6以下	※02	急性肝炎 活動性慢性肝炎 肝硬変
2462	P-Ⅲ-P (プロコラーゲンⅢペプチド) 5C130-0000-023-006	血清0.4	1	冷蔵	4~6	140 ^① 生I	IRMA (チューブ固相法)	U/mL 0.3~0.8	※06	アルコール性肝障害
2343	ミエリン塩基性蛋白 (MBP) 5G410-0000-041-023	髄液0.3	2	凍結 (1ヶ月)	4~10	577 ^③ 尿糞	ELISA法	pg/mL 102以下	※02	多発性硬化症 髄膜炎 パーキンソン病
3342	オリゴクロナルバンド 5A150-0000-098-236	血清1.0と 髄液1.0の 合計2本	1・2	冷蔵	11~15	522 ^③ 尿糞	等電点電気泳動法	検出せず	※02	多発性硬化症 ウイルス性脳炎
0156	心筋トロポニンT 5C093-0000-023-053	血清0.5	1	(分離後) 凍結 (21日)	3~5	115 ^④ 生I	ECLIA法	0.014以下 ng/mL 急性心筋梗塞診断の カットオフ値 0.100	※02	心筋梗塞 不安定狭心症
3279	血清補体価 (CH50) 5B010-0000-023-142	血清0.5	1	(分離後) 凍結	2~3	38 免疫	免疫溶血濁度測定法	U/mL 30~45	※01	膠原病 感染症 腎炎
2341	ミオグロビン	血清0.5	1	冷蔵	3~5	139 ^⑤ 生I	CLIA法	ng/mL 男性: 154.9以下 女性: 106.0以下	(部分尿) 採尿後、 速やかに専用容器 に入れ、冷蔵 してください。 ※02	心筋梗塞 筋ジストロフィー症
2342	5C090-0000-023-051 5C090-0000-001-001	部分尿6	49	冷蔵 (21日)	3~6	139 ^⑤ 生I	RIA2抗体法	ng/mL 10以下	※02	
2280	フェリチン 5C095-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	108 生I	CLIA法	ng/mL M: 17.0~291.5 F: 6.4~167.1		鉄過剰症 鉄欠乏症 骨髄性白血病
5071	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比 5A141-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	3~4	388 免疫	免疫比濁法	mg/L 遊離L鎖κ: 3.3~19.4 遊離L鎖λ: 5.7~26.3 κ/λ比: 0.26~1.65	遊離L鎖κ、遊離L鎖λのいずれかが0.5未満の場合、κ/λ比は「換算不可」と報告させていただきます。 ※01	単クローン性マクログロブリン血症
3444	オートタキシン 5C240-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5	194 ^⑥ 生I	FEIA法	下表参照	※06	肝線維化、肝硬変

① IV型コラーゲン又はIV型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P) 又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

② Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体

ア Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体は、2ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者 (疑われる患者を含む。) に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

イ 本検査とプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P)、IV型コラーゲン、IV型コラーゲン・7S又はヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

③ IgGインデックス、オリゴクロナルバンド及びミエリン塩基性蛋白 (MBP) (髄液) は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

④ 心筋トロポニン I と心筋トロポニン T (TnT) 定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

⑤ 心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABA) 定性又は定量とミオグロビン定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

⑥ オートタキシン

ア オートタキシンは、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者 (疑われる患者を含む。) に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

イ 本検査とプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P)、IV型コラーゲン、IV型コラーゲン・7S、ヒアルロン酸又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[3253] M2BPGi (判定基準)

判定	カットオフインデックス
(-)	1.00未満
(1+)	1.00~3.00未満
(2+)	3.00以上

[3444] オートタキシン

基準値 (カットオフ値) *1

	①線維化進展例*2 (mg/L)	②肝硬変 (mg/L)
M	0.910	1.690
F	1.270	2.120

①より高い検体は、肝線維化進展例と判定

②より高い検体は、肝硬変と判定

*1 判定上の留意事項

- ・妊婦では週数が進むに従いATX濃度が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。
- ・悪性リンパ腫患者、進行した悪性腫瘍患者では、ATX濃度が高値となることが確認されています。また、重度の心不全患者でも高値を示す場合があります。
- ・副腎皮質ステロイドを服用している人ではATX濃度が低値を示す場合があります。
- ・肝炎ウイルスを原因としない慢性肝疾患においては、肝線維化ステージとATX濃度の関係がウイルス性肝疾患と異なる場合があります。

*2 C型肝炎治療ガイドライン (第5.4版) の「肝線維化F2以上」に相当します。

1 プレイン容器



2 滅菌スピッツ



49 尿ミオグロビン用



項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
免疫電気泳動	0348 免疫電気泳動 (IEP) (抗ヒト全血清による) 5A135-0000-023-081	各血清0.5	1	冷蔵	7~14	170 ^① 免疫	免疫電気泳動法			M蛋白血症 骨髄腫 ALアミロイドーシス 慢性リンパ性白血病 B細胞性リンパ腫
	0349 免疫電気泳動 (IEP) (抗ヒト特異血清による) 5A135-0000-023-085					224 ^① 免疫				M蛋白の重鎖クラスおよび軽鎖の型(κ, λ)の同定
	2411 血清免疫固定電気泳動 5A135-0000-023-085									
	2412 尿免疫固定電気泳動 5A135-0000-001-085	各尿10	2			201 免疫				多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 原発性アミロイドーシス
	0350 尿中免疫電気泳動 (IEP) (ヘンズジョーンズ蛋白の同定) 5A145-0000-001-085									

- ① 免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）
- ア 免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）については、同一検体につき一回に限り算定する。
- イ 同一検体について免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
- ウ 免疫電気泳動法（特異抗血清）は、免疫固定法により実施した場合にも算定できる。

